

パネルディスカッション 全発表者

5Q1. 国際標準化教育研究会では、標準化教育に関するさまざまなテーマを取り扱っています。研究会をもっと発展させて行きたいと考えています。みなさん研究会で取り扱ったらよいと思われることをお教えてください。

5A1. (松村) 標準は範囲が広いと思います。そして標準化活動における役割もたくさんあります。エキスパートからコンベナ、幹事、議長、などなどです。それぞれの立場で必要とされることは違うと思います。したがって、それぞれの立場に対する教育プログラムが必要ではないでしょうか。

(和泉) 標準化教育に関して感じていることが3つあります。1つ目は、大学などで実施されている標準化教育のそれぞれの良さを互いに知り、活用することを考えていくことが重要と思います。2つ目としては、標準化について教育が出来る方を増やしていくことです。3つ目は、学会にもっと標準と関わっていただくことです。学会活動は学術論文を出すことが中心と考えられているむきもありますが、学会はエンジニアのソサエティであるべきではないかと思っています。エンジニアにとって標準は必須アイテムですので、もっと積極的に取り組んでいただきたいと思います。

(小出) 育てるべき人材像を考えて欲しいと思います。人材育成には時間がかかります。主催側の「こういう人材を育成したい」というビジョンと参加者側の「こういった人材になりたい」という理想像にどれだけ届いているのかを確認しながら進めていく長期的な教育プログラムがあってほしいと思います。また、教育する側も受ける側も一定の目標を設定（コミットメント）し、それに到達するための中長期的マイルストーンを用意するのが望ましいと考えます。

(大塚) 情報共有の場がもっとたくさんあったほうが良いと思います。若手向けの人材育成活動は、様々なところで取り組まれています。その内容を共有し、また、ISO や ITU などの活動も含めて JOINT していければ良いと考えます。

(附田) 標準を作って終りではなく、どう使うか、製品にどう活かすかも重要であると思います。例えば、企業の経営層向けに教育していくような活動があっても良いかと思います。

(池田) TC 100 のように日本が強ければよいが、そうではない TC もあります。受け身な TC では意見を通すことも難しいでしょう。IEC だけでなくフォーラム標準を含めどのように意見を通していくのかということも必要だと思います。活動者としてはさまざまなコネクションが得られることがわかると活動に対するインセンティブが働くと思います。

(稲垣) 京セラにおいては、自分の所属する組織には、標準化専門に取り扱うグループがありません。標準化に関する部署がほしいところです。トップスタンダード制度など、いろいろ調べていく中で JEITA に行き着き、今回の活動に加わることができました。自分はそういった経緯があり標準化に関わっていますが、世の中には、標準化できるネタを活かせていないケースも多いと思うので、そういった埋もれた価値を掘り起こす活動があっても良いと思います。

- 5C2. 学会はエンジニアリングに関与する人の集まりにしたいと考えています。
- 5C3. 標準化専門委員会で人材育成を検討しています。世代交代をどうするかという課題があります。TDK では標準化に関する部署がありません。標準化のインセンティブを上げるのはとても難しいと思います。標準化に興味をもってもらうこと、標準化の場に出てもらうことが大切だと思います。
- 5Q4. 国際標準化活動を行う人が不足していると思います。また、国際標準についてわかっていることは営業の人にも必要です。国際標準化を勉強したことが多くの分野に役立つと知られることが必要だと思います。その意味でヤンプロの参加者のその後の動向をフォローアップしていくことをご検討いただきたい。また、様々な分野や組織で国際標準化についてのプログラムが実施されているが、それらを一つの場所でリストアップする様な事はできないのでしょうか？
- 5A4. (和泉) エンジニアの定義は、「技術を知っている人」ではなく「技術を社会で活用していく人」というように考えたほうが良いのかもしれませんが。そのうえで、どういう形であればエンジニアの間で標準化のネットワークが広がるのかを模索していきたいと思います。
- 5C5. 金沢工大でも標準化に関するプロフェッショナルコースを設けています。標準化に関心をもってくれる方をもっと増やしていきたいと思います。ただ、各大学で標準化について学んだ人たちが同士が交流する場がありません。そういう場ができるとよいと思います。また、JEITA やヤンプロの人材育成コンテンツを共有できたらと考えています。